

---

# ゾルディック キルアと双子の転生者

シリウス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゾルディック キルアと双子の転生者

### 【Nコード】

N52350

### 【作者名】

シリウス

### 【あらすじ】

ある女の子が神によって間違つて殺されてしまい能力をつけてハンター×ハンターの世界へ転生！！！転生先はなんとキルアの双子の姉。最初は能力を抑えていたんだけどキルアを助けるため能力を解放して自分が後継者になることを決めただけど・・・（これは原作崩壊する予定です。苦手な人・嫌な人はすぐ回れ右をすることをお勧めします）

死んじやった

ここどこだろ

ああ私死んだんだ

別に誰かが悲しんでくれるわけでもないからいいかな

「すみません

なにあの人・・・なんで土下座してるの

「違って殺してしまいました

ふーんどうでもいいや

「あつあのなんでそんなにぶっきれるんですか

「別にどうでもいいから

「そっそっですか

(やりにくいなー

「それでこちらの間違いで殺してしまったのでハンター×ハンター  
の世界に転生しませんか？

「じゃあお願いします

「ハンター×ハンターの世界は危険がたくさんだから  
能力をいくつかあげるよ

「お願いします・・・

「なにがいい？

「なんでもいいです

そっちで勝手に決めてください

「わかったけど

（ほんとに大丈夫かな・・・

そうだひまだから性格変えて原作をかえてもらおう

「じゃあ最初にくっつか念能力決めさせてもらうよ

「念能力？

「もしかしてハンター×ハンター知らない！

「はい知りません

（これじゃだめじゃん

あっ原作読ませればいいじゃん

じゃあ万事解決

「まず記憶力だけ100倍くらいにして

見た事など全部覚えていられるようにっつと

ばああああああああああ

私の体が光り始めたが1分もたたずにおさまった

「ハンター×ハンターはあとで読ませとして  
まずはメモリーを300倍に増やしてつと  
それからオーラも増やしてつと……」

能力や身体能力についてはあとで詳しく説明します 作者

なんか遊び始めていませんか

「あつ忘れてた僕が能力作っている間にハンター×ハンター読んで  
いて

「わかりました

ふーん意外と面白い

ふう全部読み終わりましたね

なんか面白かったです

それに1文字1句覚えてる

絵も繊細に覚えていられる

これがさつき言ってた記憶力を強化した結果かな

「ふう決まった

ちよつとこつち来て

「んっ

ぱああああああああああ

また私の体が光り始めたが今度も1分たたたずにおさまった

さあどうなる私の第2の人生

### 能力の説明

体力〓体 記憶力・知力〓知 オーラ〓オ

メモリ〓メ 観察力〓観 回復力〓回

精神力〓精 総合〓総

E X S S S S S A A B B

。 C C D D E E F F G G

ハンター

転生後

めんどくさがりや  
どうでもいい  
など悲観的

性格  
転生前

チートすぎるだろ!!!

メ	才	記	体
E X	E X	E X	E X
総	精	回	観
E X	S S S	E X	E X

主人公

メ	才	記	体
平均 C	平均 C	平均 C	平均 B
総	精	回	観
D	平均 D	平均 D	平均 C

頑張りや

明るく元気

人見知り

信じた人はなにがなんでも見捨てない

念（能力）

『死は許されぬ物』

死んでしまった時・重傷を負った時などに発動

また体のどこかがなくなったときにねんじれば発動

発動すると死んでいた場合生き返らせることができる

生き返った場合オーラ・体力・メモリがそれぞれ1・5倍になる

発動すれば体の一部はなくなっても治る

神の力で念で盗む・封じることができなくなっている

オーラがなくても発動する

発動条件

死んでしまった時・重傷を負った時にしか発動しない

他人に使うことはできない



『絶対時間 改』  
エンペラータイムカイ

エンペラータイムの強化版

エンペラータイムはどの系統も100%引き出せるだが

エンペラータイム改はどの系統も150%引き出せる

発動条件

神の力でなくしました

『情報をください』

自分の体調・能力などがわかる

念で誰かが操られていたら画面に表示される

名前を知っていればその人の体調・能力がわかってしまう

発動条件

相手の能力などが知りたければ相手の名前を知らなければいけない

『死神の落とし物』  
デスノート

相手の名前・顔（写真でもok）がわかればどうやって死ぬかが決

められる

決められることは死ぬ時間・どうやって死ぬかだ  
どうやって死ぬかを書かなければ心臓まひで死ぬ  
やれば自殺に見せかけることもできる

発動条件

相手の名前・顔がわからないと殺せない

『物作りの才能』

物作りが天才的にうまい

物を作ると必ず発動してしまう

頑張れば四次元も作れる

発動条件

特になし

(物を作ること?)

## 転生

「あと原作壊していいから

(てゆうか暗示掛けてあるから  
原作をぶっ壊すんだけどね

「わかりました

で私はどこに転生するんですか？

「ゾルディックでキルアの双子の姉というふうに転生するはずだから

「はい…

では飛ばしてください

「わかった

ピカッ

そして私は意識を手放された

オギヤアオギヤア

ゾルディック家に双子の兄弟が生まれた

「おお双子か

「男の子はキルア女の子はルチアだ

ふああああああ

ねむーい

寝るのが赤ちゃんの仕事だって言うからいいよね

（おーい

「あい（なに（

（心の中でしゃべっても僕にはわかるから

）でっ何？

（最初からこのオーラの量だとふしんがられるから

コントロールしてその10分の1くらいの量にしてよってね

（コントロールってどうやって？

（やろつと思えばできるから

じゃあね

適當すぎるだろ！

(バイバイ)

はぁーさてとやってみるか

んつと10分の1になれ!!!

できたかな・・・

わかんないけどいいや

じゃあまず体調とかを見てみるかな

体調 特になし

眠気

眠気は赤ちゃんだからしょうがないかな

んつ何これ

『通じる心と通じるからだ』

一緒に生まれたキルアにオーラをかし与えることができる

キルアがもし死んでしまった場合念などは1・5倍にはならないが

生き返らせることができる・・・

念を貸した場合は自分にも戻すことができる

## 発動条件

これはキルアにしか使えない

自分からキルアに行くのであってキルアのオーラをもらうこととはできない

こんな神の所で見たときはなかったと思うけど・・・

まあいいか

あっあたしの隠れみんとして使おう

どうせそれでキルアは家でてくんだし

そうと決まったらなれとして少しずつキルアに上げていくか

んゝ最初はこのくらいかな・・・

転生（後書き）

なんか微妙なところで終わってすみません・・・

## 修行の日々

それから3年後

えっいきなり飛びすぎだろって

だって赤ちゃん時代って詰まんないじゃない

寝て起きて寝て起きてご飯食べての繰り返しだよ

それにそれと言ったこともなかったし・・・

それにしてもゾルディックの訓練きつすぎっす

だってあれだよご飯に毒混ぜてあったりだとか

あとから聞いてびっくりしたね・・・

ちなみにミルクの時からずっと入れてあったらしい

まあそのおかげで毒聞かない体になっちゃったけどね

それに原作でゴンとキルアがグリーンアイランドでやってた

寝るときの石あれもやられたね

キルアと一緒に2歳からやられたね寝ようとする石が落ちてくる  
んですわ



次の日は一緒に頭にたんこぶを作りました

そんな修行を一緒にやってきたのもあってキルアとはすごく仲がいいです

ひまなときは鬼ごっこやってたり

私がつったスケボーなんかで遊んだり・・・

まあ修行の様子を早送りで確認します

0歳 毒を飲まされ始める

1歳 同じく

2歳 寝ようとすると石が落ちてくる

3歳 川で走らされる (流れがとても急な川・・・)

4歳 無音歩行術をやらされる

5歳 肢曲をやらされる

6歳 シルバと鬼ごっこ (必ず負けてバツゲーム)

7歳 同じく

8歳 肉体を変化させられるように修行

9歳 念を教えられる私にだけ (キルアはやっていない)

10歳 やりたくはないが暗殺を始める

11歳 同じく 四次元バックを開発

12歳 同じく

「ねえキルアあなたほんとはここにいたくないんじゃない？」

「そんなこと・・・」

「私のことは大丈夫気にしないで」

「ほんとには俺人を殺したくないんだ  
でも・・・」

「わかったキルアにその気持ちがあるんだっ  
たら家出してもいいよ」

「そんなの無理だよ」

「大丈夫まかせて」

「ルチア・・・」

ふーそしたら父さんの所へ行こうかな

「父さん」

「んっどうしたんだ」

「キルアを家から出してくれない？」

「！・・・なぜだ」

「やっぱりびっくりするよね」

「キルアが家を出たがっているから」

「それでキルアがやっていたぶんの仕事はどうするんだ・・・」

「私がやる」

「おまえも嫌がっていたじゃないか」

「だってキルアが苦しんでいるのみるの辛いんだよ」

「・・・」

「キルアは父さんとは違うんだから」

「ルチア・・・」

「父さんおねがい」

「わかった認めよう」

「父さん！！」

あっそれからキルアのぶんの仕事を私がやっていることは

キルアには内緒にしておいて・・・

「わかった

「ありがとうじゃあよろしくね

そう言って私は部屋から出て行った

「キルア」

「ルチア・・・

「父さんが家でてもいいって

「ほんとか

ふふ喜んでる喜んでる

「ほんとよウソつかないわ

「はは・・・じゃあ俺行ってくるよ

「うんスケボーは選別にあげる

「ありがとう

「うん元気でやってね

苦しかったらいつでも帰ってきていいんだからね

「わかったほんとにありがとうとルチア

また会おうな

「うんじゃーねー

ふうやっといったかな

私は次の仕事のためにハンター試験を受けに行かないといけないかな

その前に家をださせられてよかった

さあ私はハンター試験に向かいますか

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5235o/>

---

ゾルディック キルアと双子の転生者

2011年2月7日20時00分発行